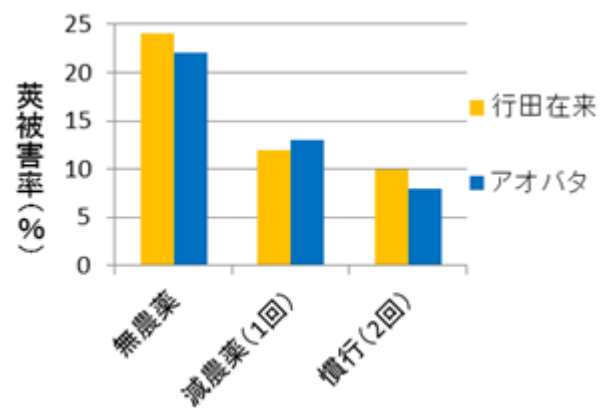
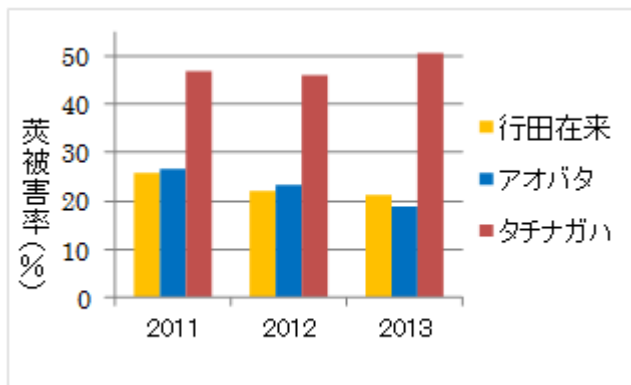


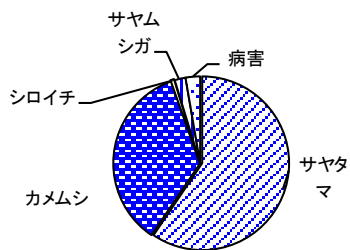
在来大豆の減農薬栽培

県内で栽培されている在来大豆は、病害虫に強いといわれていますが、詳しい調査はされていませんでした。そこで在来大豆の中から有望な2品種「行田在来」「アオバタ」について、病害虫に対する特性を調べました。無農薬栽培を3年間続けたところ、在来大豆は、慣行の「タチナガハ」に比べて害虫に強いことがわかりました。この特性を生かして7月上旬に播種し、開花後10日に殺虫剤（ネオニコチノイド系薬剤）を1回散布することでエダマメの減農薬栽培が可能であることがわかりました。

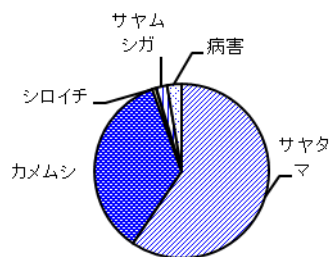


【無農薬栽培の英被害率】

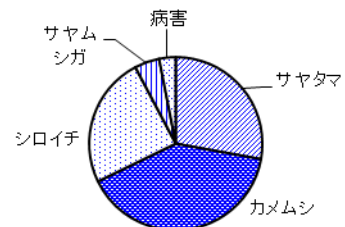
【減農薬栽培の英被害率】



行田在来



アオバタ



タチナガハ

【在来大豆の害虫別英被害】

行田在来、アオバタは、サヤタマバエ、カメムシ類の被害が主で、シロイチモジマダラメイガはタチナガハに比べて少なかった。



サヤタマバエ



カメムシ



シロイチモジマダラメイガ



ハスモンヨトウ



ツメクサガ

【在来大豆の要防除害虫】

【要注意害虫】

(農林総合研究センター 病害虫防除技術担当 TEL 0480-21-1114)